

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2020-7002

(P2020-7002A)

(43) 公開日 令和2年1月16日(2020.1.16)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 85/50 (2006.01)	B 6 5 D 85/50 2 0 0	3 E 0 3 5
B 6 5 D 30/10 (2006.01)	B 6 5 D 30/10 S	3 E 0 6 4
B 6 5 D 33/00 (2006.01)	B 6 5 D 33/00 C	
B 6 5 D 30/28 (2006.01)	B 6 5 D 30/28 L	

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願2018-129739 (P2018-129739)	(71) 出願人	518244002
(22) 出願日	平成30年7月9日(2018.7.9)		I Pホールディングス株式会社
			東京都東大和市南街1-11-13
		(74) 代理人	110002066
			特許業務法人筒井国際特許事務所
		(72) 発明者	守重 碧朗
			東京都東大和市南街1-11-13 I P
			ホールディングス株式会社内
		Fターム(参考)	3E035 AA20 BA08 BB08 BC02
			3E064 AA01 AD16 AE11 BA26 BA30
			EA30 FA01 HM01 HM02 HN06

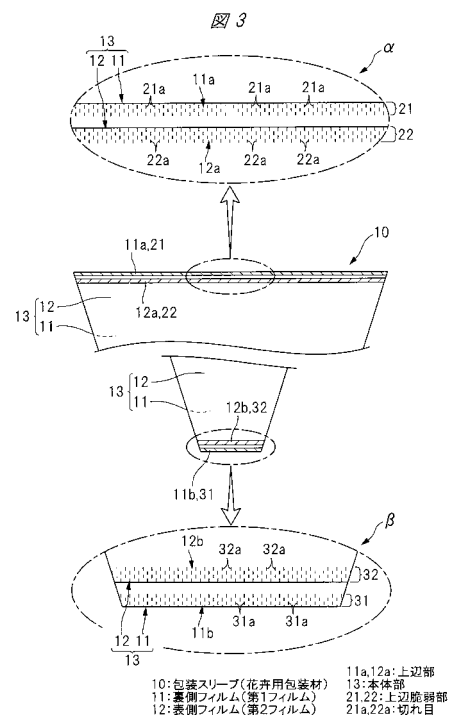
(54) 【発明の名称】 花卉用包装材および包装材積層体

(57) 【要約】

【課題】簡単に開封することのできる花卉用包装材を提供する。

【解決手段】花卉を包装する包装スリーブ10であって、裏側フィルム11とこれに対向する表側フィルム12とを備え、裏側フィルム11と表側フィルム12との側辺部が互いに接合される本体部13と、裏側フィルム11と表側フィルム12との少なくとも何れか一方の上辺部11a, 12aに形成され、フィルム面に付けられた多数の切れ目21a, 22aからなる帯状の上辺脆弱部21, 22と、を有する。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

花卉を包装する花卉用包装材であって、

第 1 フィルムとこれに対向する第 2 フィルムとを備え、前記第 1 フィルムと前記第 2 フィルムとの側辺部が互いに接合される本体部と、

前記第 1 フィルムと前記第 2 フィルムとの少なくとも何れか一方の上辺部に形成され、フィルム面に付けられた多数の切れ目からなる帯状の上辺脆弱部と、を有する、花卉用包装材。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の花卉用包装材において、

10

前記第 1 フィルムと前記第 2 フィルムとの少なくとも何れか一方の下辺部に形成され、フィルム面に付けられた多数の切れ目からなる帯状の下辺脆弱部、を有する、花卉用包装材。

【請求項 3】

花卉を包装する花卉用包装材を積層した包装材積層体であって、

複数の前記花卉用包装材が積層される包装材群と、

前記花卉用包装材に切取線を介して連なる保持片を複数備え、複数の前記保持片が積層されて互いに接合される保持片群と、を有し、

20

前記花卉用包装材は、前記保持片に前記切取線を介して連なる第 1 フィルムと、前記第 1 フィルムに対向して側辺部が互いに接合される第 2 フィルムと、を備え、

前記第 1 フィルムと前記第 2 フィルムとの少なくとも何れか一方の上辺部に、フィルム面に付けられた多数の切れ目からなる帯状の上辺脆弱部が形成される、包装材積層体。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の包装材積層体において、

前記上辺脆弱部は、前記切取線に重なって前記第 1 フィルムと前記保持片との双方に形成される、包装材積層体。

【発明の詳細な説明】

30

【技術分野】

【0001】

本発明は、花卉を包装する花卉用包装材、および花卉用包装材を積層した包装材積層体に関する。

【背景技術】

【0002】

花束等の花卉を小売店で販売する際には、樹脂製や紙製のシートを用いて花卉を包装することが多い。しかしながら、シートを用いて花卉を包装することは、煩雑な作業であることから、花卉を包装する花卉用包装材として、テープ状に加工された樹脂製の包装スリーブが提案されている（特許文献 1 参照）。この包装スリーブを用いることにより、花卉を挿入するだけで簡単に包装することができる。

40

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2012-91822 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、花卉用包装材である包装スリーブの材料として、ポリエチレンやポリプロピレン等の樹脂フィルムを用いることが多い。しかしながら、樹脂フィルムを用いた包装ス

50

リーブは強靱であることから、包装スリーブ内から花卉を取り出す際に包装スリーブを裂くことが困難であった。このため、簡単に開封することのできる花卉用包装材が求められている。

【0005】

本発明の目的は、簡単に開封することのできる花卉用包装材を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の花卉用包装材は、花卉を包装する花卉用包装材であって、第1フィルムとこれに対向する第2フィルムとを備え、前記第1フィルムと前記第2フィルムとの側辺部が互いに接合される本体部と、前記第1フィルムと前記第2フィルムとの少なくとも何れか一方の上辺部に形成され、フィルム面に付けられた多数の切れ目からなる帯状の上辺脆弱部と、を有する。

10

【0007】

本発明の包装材積層体は、花卉を包装する花卉用包装材が積層される包装材積層体であって、複数の前記花卉用包装材が積層される包装材群と、前記花卉用包装材に切取線を介して連なる保持片を複数備え、複数の前記保持片が積層されて互いに接合される保持片群と、を有し、前記花卉用包装材は、前記保持片に前記切取線を介して連なる第1フィルムと、前記第1フィルムに対向して側辺部が互いに接合される第2フィルムと、を備え、前記第1フィルムと前記第2フィルムとの少なくとも何れか一方の上辺部に、フィルム面に付けられた多数の切れ目からなる帯状の上辺脆弱部が形成される。

20

【発明の効果】

【0008】

本発明によれば、第1フィルムと第2フィルムとの少なくとも何れか一方の上辺部に、フィルム面に付けられた多数の切れ目からなる帯状の上辺脆弱部が形成される。これにより、花卉用包装材を簡単に開封することができる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】本発明の一実施の形態である包装スリーブ（花卉用包装材）を示す斜視図である。

【図2】（A）は包装スリーブを示す正面図であり、（B）は図2（A）のa-a線に沿って包装スリーブを示す断面図である。

30

【図3】包装スリーブの一部を拡大して示す部分拡大図である。

【図4】本発明の一実施の形態であるスリーブ積層体（包装材積層体）を示す斜視図である。

【図5】スリーブ積層体を示す正面図である。

【図6】スリーブ積層体の一部を拡大して示す部分拡大図である。

【図7】（A）および（B）は、包装スリーブの製造過程の一例を示す説明図である。

【図8】包装スリーブの製造過程の一例を示す説明図である。

【図9】包装スリーブの開封手順の一例を示す図である。

【図10】包装スリーブの開封手順の一例を示す図である。

40

【図11】包装スリーブの開封手順の一例を示す図である。

【図12】包装スリーブの開封手順の他の例を示す図である。

【図13】（A）は本発明の他の実施形態であるスリーブ積層体（包装材積層体）を示す部分拡大図であり、（B）は本発明の他の実施形態である包装スリーブ（花卉用包装材）を示す部分拡大図である。

【図14】（A）は本発明の他の実施形態であるスリーブ積層体（包装材積層体）を示す部分拡大図であり、（B）は本発明の他の実施形態である包装スリーブ（花卉用包装材）を示す部分拡大図である。

【図15】（A）は本発明の他の実施形態であるスリーブ積層体（包装材積層体）を示す部分拡大図であり、（B）は本発明の他の実施形態である包装スリーブ（花卉用包装材）

50

を示す部分拡大図である。

【図 1 6】 (A) は本発明の他の実施形態であるスリーブ積層体 (包装材積層体) を示す部分拡大図であり、 (B) は本発明の他の実施形態である包装スリーブ (花卉用包装材) を示す部分拡大図である。

【発明を実施するための形態】

【0010】

以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて詳細に説明する。

【0011】

[包装スリーブ]

図 1 は本発明の一実施の形態である包装スリーブ (花卉用包装材) 10 を示す斜視図である。図 2 (A) は包装スリーブ 10 を示す正面図であり、図 2 (B) は図 2 (A) の a-a 線に沿って包装スリーブ 10 を示す断面図である。また、図 3 は包装スリーブ 10 の一部を拡大して示す部分拡大図である。なお、図 2 および図 3 には、後述する上辺脆弱部 21, 22 および下辺脆弱部 31, 32 がハッチングで示されている。

【0012】

図 1 および図 2 に示すように、包装スリーブ 10 の本体部 13 は、シート状の裏側フィルム (第 1 フィルム) 11 と、これに対向するシート状の表側フィルム (第 2 フィルム) 12 と、を有している。裏側フィルム 11 は、上辺部 11a と、これに平行であって上辺部 11a よりも短い下辺部 11b と、互いに傾斜する左右の側辺部 11c, 11d と、を有している。同様に、表側フィルム 12 は、上辺部 12a と、これに平行であって上辺部 12a よりも短い下辺部 12b と、互いに傾斜する左右の側辺部 12c, 12d と、を有している。また、表側フィルム 12 の上辺部 12a は、裏側フィルム 11 の上辺部 11a よりも下側に位置しており、表側フィルム 12 の下辺部 12b は、裏側フィルム 11 の下辺部 11b よりも上側に位置している。

【0013】

裏側フィルム 11 の側辺部 11c と表側フィルム 12 の側辺部 12c とは互いに接合されており、裏側フィルム 11 の側辺部 11d と表側フィルム 12 の側辺部 12d とは互いに接合されている。裏側フィルム 11 および表側フィルム 12 の素材としては、ポリエチレンやポリプロピレン等の熱可塑性樹脂が用いられる。このため、側辺部 11c, 11d, 12c, 12d を加熱して圧着することにより、側辺部 11c, 11d, 12c, 12d は互いに溶けて接合される。

【0014】

ヒートシール部分である側辺部 11c, 11d, 12c, 12d の接合強度としては、包装スリーブ 10 の実用性を確保する観点から、 $0.6 \text{ kgf} / 15 \text{ mm}$ 以上であることが望ましい。側辺部 11c, 11d, 12c, 12d の接合強度は、日本工業規格 JIS Z 0238 に準拠した方法で測定される。例えば、側辺部 11c, 12c の接合強度を測定する際には、包装スリーブ 10 から側辺部 11c, 12c に対して直角の方向に幅 15 mm の試験片が切り出される。そして、切り出し後に展開された試験片に対して、定速緊張形引張試験機であるショッパー試験機を用いた引張試験が施される。なお、引張試験の条件としては、引張速度が $300 \text{ mm} / \text{min}$ であり、温度が 23°C であり、湿度が 50% である。このように、側辺部 11c, 12c の接合強度が「 $0.6 \text{ kgf} / 15 \text{ mm}$ 」以上であるということは、幅寸法が 15 mm の試験片を対象とした上記の引張試験において、側辺部 11c, 12c の破断荷重が 0.6 kgf 以上であることを意味している。同様に、側辺部 11d, 12d の接合強度が「 $0.6 \text{ kgf} / 15 \text{ mm}$ 」以上であるということは、幅寸法が 15 mm の試験片を対象とした上記の引張試験において、側辺部 11d, 12d の破断荷重が 0.6 kgf 以上であることを意味している。

【0015】

図 3 の拡大部分 a に示すように、裏側フィルム 11 の上辺部 11a には、帯状の上辺脆弱部 21 が形成される。この上辺脆弱部 21 のフィルム面には、多数の微細な切れ目 21a が形成されている。つまり、裏側フィルム 11 の上辺部 11a には、フィルム面に付け

られた多数の切れ目 2 1 a からなる上辺脆弱部 2 1 が形成されている。同様に、表側フィルム 1 2 の上辺部 1 2 a には、帯状の上辺脆弱部 2 2 が形成される。この上辺脆弱部 2 2 のフィルム面には、多数の微細な切れ目 2 2 a が形成されている。つまり、表側フィルム 1 2 の上辺部 1 2 a には、フィルム面に付けられた多数の切れ目 2 2 a からなる上辺脆弱部 2 2 が形成されている。

【0016】

また、図 3 の拡大部分 β に示すように、裏側フィルム 1 1 の下辺部 1 1 b には、帯状の下辺脆弱部 3 1 が形成される。この下辺脆弱部 3 1 のフィルム面には、多数の微細な切れ目 3 1 a が形成されている。つまり、裏側フィルム 1 1 の下辺部 1 1 b には、フィルム面に付けられた多数の切れ目 3 1 a からなる下辺脆弱部 3 1 が形成されている。同様に、表側フィルム 1 2 の下辺部 1 2 b には、帯状の下辺脆弱部 3 2 が形成される。この下辺脆弱部 3 2 のフィルム面には、多数の微細な切れ目 3 2 a が形成されている。つまり、表側フィルム 1 2 の下辺部 1 2 b には、フィルム面に付けられた多数の切れ目 3 2 a からなる下辺脆弱部 3 2 が形成されている。

【0017】

なお、切れ目 2 1 a, 3 1 a が付けられるフィルム面とは、裏側フィルム 1 1 の表面や裏面を意味し、切れ目 2 2 a, 3 2 a が付けられるフィルム面とは、表側フィルム 1 2 の表面や裏面を意味している。つまり、裏側フィルム 1 1 に切れ目 2 1 a, 3 1 a を付ける際には、裏側フィルム 1 1 の表面から切れ目 2 1 a, 3 1 a を付けても良く、裏側フィルム 1 1 の裏面から切れ目 2 1 a, 3 1 a を付けても良い。同様に、表側フィルム 1 2 に切れ目 2 2 a, 3 2 a を付ける際には、表側フィルム 1 2 の表面から切れ目 2 2 a, 3 2 a を付けても良く、表側フィルム 1 2 の裏面から切れ目 2 2 a, 3 2 a を付けても良い。また、裏側フィルム 1 1 に付けられる切れ目 2 1 a, 3 1 a としては、裏側フィルム 1 1 を貫通しても良く、裏側フィルム 1 1 を貫通していなくても良い。また、表側フィルム 1 2 に付けられる切れ目 2 2 a, 3 2 a としては、表側フィルム 1 2 を貫通しても良く、表側フィルム 1 2 を貫通していなくても良い。また、一例として図示した切れ目 2 1 a, 2 2 a, 3 1 a, 3 2 a は、0.5 mm の長さ寸法を備えた直線状の切れ目であるが、これに限られることはなく、他の長さ寸法や形状を備えた切れ目を採用しても良い。

【0018】

[スリーブ積層体]

図 4 は本発明の一実施の形態であるスリーブ積層体（包装材積層体）40 を示す斜視図である。図 5 はスリーブ積層体 40 を示す正面図であり、図 6 はスリーブ積層体 40 の一部を拡大して示す部分拡大図である。なお、図 5 および図 6 には、上辺脆弱部 2 1, 2 2 および下辺脆弱部 3 1, 3 2 がハッチングで示されている。また、図 4～図 6 において、図 1～図 3 に示した部位と同じ部位については、同一の符号を付してその説明を省略する。

【0019】

図 4 および図 5 に示すように、スリーブ積層体 40 は、積層された複数の包装スリーブ 10 からなるスリーブ群（包装材群）41 と、このスリーブ群 41 を束ねて保持する保持片群 42 と、を有している。スリーブ積層体 40 の保持片群 42 は、複数枚の保持片 43 によって構成されており、それぞれの保持片 43 は、包装スリーブ 10 の裏側フィルム 11 にミシン目（切取線）44 を介して連なっている。保持片 43 の素材としては、裏側フィルム 11 と同様に、ポリエチレンやポリプロピレン等の熱可塑性樹脂が用いられる。図示する例では、保持片群 42 に対して加熱された刃物を押し付けることにより、保持片群 42 には内周面が溶けて接合した貫通孔 45 が形成される。これにより、複数枚の保持片 43 を一体に接合することができるため、一体となった保持片群 42 によって複数枚の包装スリーブ 10 を束ねることができる。

【0020】

また、図 6 の拡大部分 α に示すように、裏側フィルム 1 1 の上辺部 1 1 a には、ミシン目 44 を介して保持片 43 が連なっている。そして、裏側フィルム 1 1 と保持片 43 との

双方には、境界部分のミシン目44を覆うように、多数の微細な切れ目21aからなる帯状の上辺脆弱部21が形成されている。つまり、ミシン目44に重なって裏側フィルム11と保持片43との双方には、フィルム面に付けられた多数の切れ目21aからなる上辺脆弱部21が形成されている。

【0021】

このようなスリーブ積層体40を用いて花束を包装する際には、スリーブ積層体40を図示しないスタンドに吊り下げた状態のもとで、最前面に位置する包装スリーブ10のフィルム11, 12間に花束が挿入される。そして、花束が挿入された包装スリーブ10は、ミシン目44に沿ってスリーブ積層体40から破り取られる。ここで、前述したように、裏側フィルム11と保持片43との双方には、ミシン目44に重なって帯状の上辺脆弱部21が形成されている。これにより、図3の拡大部分αに示すように、ミシン目44に沿って破り取られた包装スリーブ10には、上辺部11aの上端まで広がる上辺脆弱部21が形成されている。

【0022】

〔包装スリーブの製造過程〕

包装スリーブ10の製造過程について説明する。図7(A)、図7(B)および図8は、包装スリーブ10の製造過程の一例を示す説明図である。

【0023】

図7(A)に示すように、包装スリーブ10を製造する際には、裏側フィルム11の材料である帯状フィルム51と、表側フィルム12の材料である帯状フィルム52と、が準備される。帯状フィルム51の幅寸法は、帯状フィルム52の幅寸法よりも広く形成されている。裏側フィルム11の材料である帯状フィルム51の幅方向の両端部には、図示しない回転カッターを押し付けることにより、点線状の切れ目であるミシン目44が形成される。また、帯状フィルム51の幅方向の両端部には、図示しない回転カッターを押し付けることにより、多数の微細な切れ目からなる帯状の脆弱部61が、ミシン目44に重なる位置に形成される。また、表側フィルム12の材料である帯状フィルム52の幅方向の両端部には、図示しない回転カッターを押し付けることにより、多数の微細な切れ目からなる帯状の脆弱部62が形成される。

【0024】

続いて、図7(B)に示すように、帯状フィルム51と帯状フィルム52とを互いに重ねた状態のもとで、切断線Xに沿って図示しない溶断カッターを押し付けることにより、帯状フィルム51, 52から台形状の包装スリーブ10が切り出される。溶断カッターは加熱されており、帯状フィルム51, 52から包装スリーブ10を切り出す際に、図8に示すように、包装スリーブ10の側辺部11c, 11d, 12c, 12dが溶けて接合される。なお、帯状フィルム51, 52から歩留まり良く包装スリーブ10を切り出すため、隣り合う包装スリーブ10の上下を反転させながら包装スリーブ10が切り出される。

【0025】

そして、図8に示すように、切り出された包装スリーブ10の下辺部11b, 12bから、余ったフィルム片70がミシン目44に沿って除去される。その後、保持片43を備えた包装スリーブ10を積層した後に、前述したように、保持片群42に対して加熱された刃物を押し付けることにより、保持片群42には内周面が溶けて接合された貫通孔45が形成される。これにより、複数枚の保持片43が一体に接合され、複数枚の包装スリーブ10を束ねたスリーブ積層体40が完成する。

【0026】

〔包装スリーブの開封手順〕

続いて、包装スリーブ10の開封手順について説明する。図9～図11は、包装スリーブ10の開封手順の一例を示す図である。

【0027】

図9に示すように、包装スリーブ10には花束(花卉)Fが挿入されている。この包装スリーブ10から花束Fを取り出す際には、矢印Xaで示すように、包装スリーブ10が

10

20

30

40

50

上辺部 12a から側辺部 11d, 12d に向けて手で引き裂かれる。ここで、包装スリーブ 10 の上辺部 12a には、多数の切れ目 22a からなる上辺脆弱部 22 が形成されるため、簡単に包装スリーブ 10 を手で裂くことができる。続いて、図 10 に示すように、包装スリーブ 10 が側辺部 11d, 12d まで裂かれると、矢印 Xb で示すように、包装スリーブ 10 が側辺部 11d, 12d やその近傍に沿って引き裂かれる。そして、図 11 に示すように、包装スリーブ 10 が下辺部 11b, 12b まで裂かれると、花束 F を露出させることができるため、花束 F を傷つけることなく簡単に取り出すことができる。

【0028】

このように、包装スリーブ 10 に上辺脆弱部 22 を形成することにより、包装スリーブ 10 の側辺部 11d, 12d まで容易に裂くことができるため、側辺部 11d, 12d の接合強度が高い場合であっても、包装スリーブ 10 を側辺部 11d, 12d やその近傍に沿って引き裂くことができる。これにより、包装スリーブ 10 の実用性を確保する観点から、側辺部 11d, 12d (11c, 12c) の接合強度が $0.6 \text{ kgf} / 15 \text{ mm}$ 以上に設定された場合であっても、簡単に包装スリーブ 10 を開封して花束 F を取り出すことができる。なお、側辺部 11d, 12d (11c, 12c) の接合強度が $0.6 \text{ kgf} / 15 \text{ mm}$ 未満に設定されていた場合であっても、包装スリーブ 10 に上辺脆弱部 22 等を形成することにより、包装スリーブ 10 の開封作業が極めて容易になることは言うまでもない。

【0029】

また、図 9 ~ 図 11 に示した例では、包装スリーブ 10 を開封する際に、表側フィルム 12 を上辺脆弱部 22 から側辺部 11d, 12d に向けて裂いているが、これに限られることはない。ここで、図 12 は、包装スリーブ 10 の開封手順の他の例を示す図である。図 12 に示すように、包装スリーブ 10 から花束 F を取り出す際には、矢印 Xa で示すように、包装スリーブ 10 が上辺部 12a から下辺部 12b に向けて手で引き裂かれる。ここで、包装スリーブ 10 の上辺部 12a には、多数の切れ目 22a からなる上辺脆弱部 22 が形成されるため、簡単に包装スリーブ 10 を手で裂くことができる。そして、包装スリーブ 10 が下辺部 12b まで裂かれると、花束 F を露出させることができるため、花束 F を傷つけることなく簡単に取り出すことができる。

【0030】

なお、前述の図 9 ~ 図 11 に示した例では、包装スリーブ 10 を開封する際に、包装スリーブ 10 を上辺部 12a から側辺部 11d, 12d に向けて裂いているが、これに限られることはない。例えば、包装スリーブ 10 を開封する際に、包装スリーブ 10 を上辺部 11a から裂き始めても良く、包装スリーブ 10 を下辺部 11b, 12b から裂き始めても良い。また、包装スリーブ 10 を開封する際に、包装スリーブ 10 を、上辺部 11a, 12a や下辺部 11b, 12b から、他方の側辺部 11c, 12c に向けて裂いても良い。同様に、図 12 に示した例では、包装スリーブ 10 を開封する際に、包装スリーブ 10 を上辺部 12a から下辺部 12b に向けて裂いているが、これに限られることはない。例えば、包装スリーブ 10 を開封する際に、包装スリーブ 10 を上辺部 11a から裂き始めても良く、包装スリーブ 10 を下辺部 11b, 12b から裂き始めても良い。

【0031】

〔他の実施形態〕

図 13 (A) は本発明の他の実施形態であるスリーブ積層体 (包装材積層体) 70 を示す部分拡大図であり、図 13 (B) は本発明の他の実施形態である包装スリーブ (花卉用包装材) 71 を示す部分拡大図である。また、図 14 (A) は本発明の他の実施形態であるスリーブ積層体 (包装材積層体) 80 を示す部分拡大図であり、図 14 (B) は本発明の他の実施形態である包装スリーブ (花卉用包装材) 81 を示す部分拡大図である。なお、図 13 および図 14 において、図 3 および図 6 に示した部位と同様の部位については、同一の符号を付してその説明を省略する。

【0032】

図 3 および図 6 に示した例では、裏側フィルム 11 と表側フィルム 12 との双方に、上

10

20

30

40

50

辺脆弱部 2 1, 2 2 を形成しているが、これに限られることはない。図 1 3 (A) および (B) に示すように、表側フィルム 1 2 に上辺脆弱部 2 2 を形成する一方、裏側フィルム 1 1 から上辺脆弱部 2 1 を省略しても良い。また、図 1 4 (A) および (B) に示すように、裏側フィルム 1 1 に上辺脆弱部 2 1 を形成する一方、表側フィルム 1 2 から上辺脆弱部 2 2 を省略しても良い。

【0033】

図 1 5 (A) は本発明の他の実施形態であるスリーブ積層体 (包装材積層体) 9 0 を示す部分拡大図であり、図 1 5 (B) は本発明の他の実施形態である包装スリーブ (花卉用包装材) 9 1 を示す部分拡大図である。また、図 1 6 (A) は本発明の他の実施形態であるスリーブ積層体 (包装材積層体) 1 0 0 を示す部分拡大図であり、図 1 6 (B) は本発明の他の実施形態である包装スリーブ (花卉用包装材) 1 0 1 を示す部分拡大図である。なお、図 1 5 および図 1 6 において、図 3 および図 6 に示した部位と同様の部位については、同一の符号を付してその説明を省略する。

【0034】

図 7 に示した例では、裏側フィルム 1 1 の材料である帯状フィルム 5 1 に、多数の微細な切れ目からなる帯状の脆弱部 6 1 が形成され、表側フィルム 1 2 の材料である帯状フィルム 5 2 に、多数の微細な切れ目からなる帯状の脆弱部 6 2 が形成される。これにより、図 6 に示すように、裏側フィルム 1 1 および表側フィルム 1 2 に対して、別個に上辺脆弱部 2 1, 2 2 を形成しているが、これに限られることはない。

【0035】

図 1 5 (A) に示すように、表側フィルム 1 2 の上辺部 1 2 a、裏側フィルム 1 1 の上辺部 1 1 a、および保持片 4 3 に跨がるように、多数の微細な切れ目 9 2 a からなる帯状の上辺脆弱部 9 2 を形成しても良い。この場合には、図 1 5 (B) に示すように、1 本の上辺脆弱部 9 2 が、裏側フィルム 1 1 の上辺脆弱部 2 1 として機能し、表側フィルム 1 2 の上辺脆弱部 2 2 として機能する。また、図 1 6 (A) に示すように、表側フィルム 1 2 の上辺部 1 2 a、および裏側フィルム 1 1 の上辺部 1 1 a に跨がるように、多数の微細な切れ目 1 0 2 a からなる帯状の上辺脆弱部 1 0 2 を形成しても良い。この場合には、図 1 6 (B) に示すように、1 本の上辺脆弱部 1 0 2 が、裏側フィルム 1 1 の上辺脆弱部 2 1 として機能し、表側フィルム 1 2 の上辺脆弱部 2 2 として機能する。

【0036】

本発明は前記実施の形態に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で種々変更可能であることはいうまでもない。前述の説明では、包装スリーブ 1 0, 7 1, 8 1, 9 1, 1 0 1 によって包装される花卉として花束を挙げているが、包装される花卉としては花物に限られることはなく葉物や実物であっても良い。また、前述の説明では、包装スリーブ 1 0, 7 1, 8 1, 9 1, 1 0 1 を台形状に形成しているが、これに限られることはなく、包装スリーブ 1 0, 7 1, 8 1, 9 1, 1 0 1 を台形以外に形成しても良い。例えば、側辺部 1 1 c, 1 1 d, 1 2 c, 1 2 d を曲線状に形成しても良く、上辺部 1 1 a, 1 2 a や下辺部 1 1 b, 1 2 b を曲線状に形成しても良い。また、前述の説明では、包装スリーブ 1 0, 7 1, 8 1, 9 1, 1 0 1 の上辺部 1 1 a, 1 2 a と下辺部 1 1 b, 1 2 b との双方を開いているが、これに限られることはなく、包装スリーブ 1 0, 7 1, 8 1, 9 1, 1 0 1 の下辺部 1 1 b, 1 2 b を互いに接合して閉じていても良い。

【0037】

図示する例では、上辺部 1 1 a, 1 2 a の縁に達するまで、上辺脆弱部 2 1, 2 2 を広げて形成しているが、これに限られることはなく、上辺部 1 1 a, 1 2 a の縁から離して上辺脆弱部 2 1, 2 2 を形成しても良い。同様に、図示する例では、下辺部 1 1 b, 1 2 b の縁に達するまで、下辺脆弱部 3 1, 3 2 を広げて形成しているが、これに限られることはなく、下辺部 1 1 b, 1 2 b の縁から離して下辺脆弱部 3 1, 3 2 を形成しても良い。また、前述の説明では、裏側フィルム 1 1 と表側フィルム 1 2 との双方に、下辺脆弱部 3 1, 3 2 を形成しているが、これに限られることはない。例えば、裏側フィルム 1 1 と表側フィルム 1 2 との双方から下辺脆弱部 3 1, 3 2 を省略しても良い。また、裏側フィ

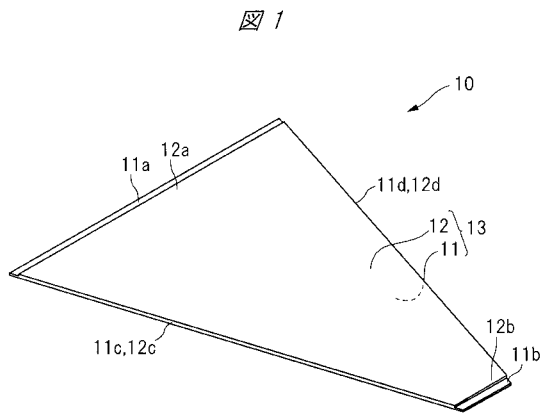
ルム 1 1 だけに下辺脆弱部 3 1 を形成しても良く、表側フィルム 1 2 だけに下辺脆弱部 3 2 を形成しても良い。

【符号の説明】

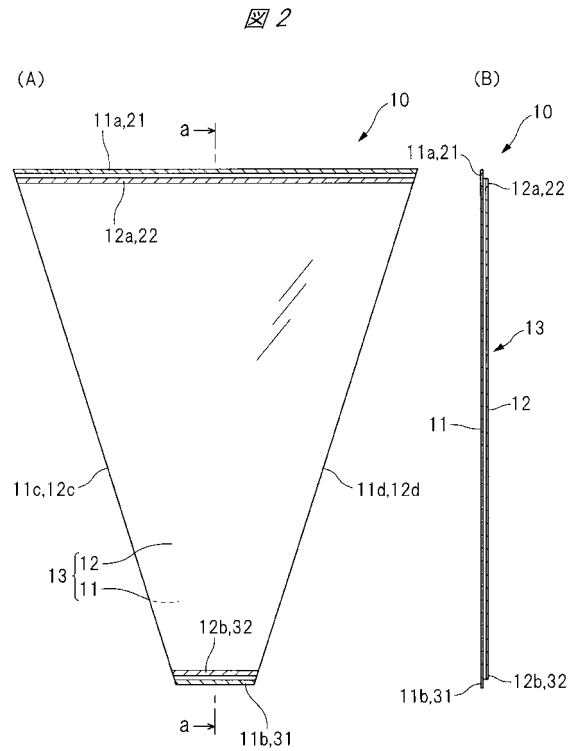
【0038】

1 0	包装スリーブ（花卉用包装材）	
1 1	裏側フィルム（第 1 フィルム）	
1 1 a	上辺部	
1 1 b	下辺部	
1 1 c, 1 1 d	側辺部	
1 2	表側フィルム（第 2 フィルム）	10
1 2 a	上辺部	
1 2 b	下辺部	
1 2 c, 1 2 d	側辺部	
1 3	本体部	
2 1	上辺脆弱部	
2 1 a	切れ目	
2 2	上辺脆弱部	
2 2 a	切れ目	
3 1	下辺脆弱部	
3 1 a	切れ目	20
3 2	下辺脆弱部	
3 2 a	切れ目	
4 0	スリーブ積層体（包装材積層体）	
4 1	スリーブ群（包装材群）	
4 2	保持片群	
4 3	保持片	
4 4	ミシン目（切取線）	
7 0	スリーブ積層体（包装材積層体）	
7 1	包装スリーブ（花卉用包装材）	
8 0	スリーブ積層体（包装材積層体）	30
8 1	包装スリーブ（花卉用包装材）	
9 0	スリーブ積層体（包装材積層体）	
9 1	包装スリーブ（花卉用包装材）	
9 2	上辺脆弱部	
1 0 0	スリーブ積層体（包装材積層体）	
1 0 1	包装スリーブ（花卉用包装材）	
1 0 2	上辺脆弱部	

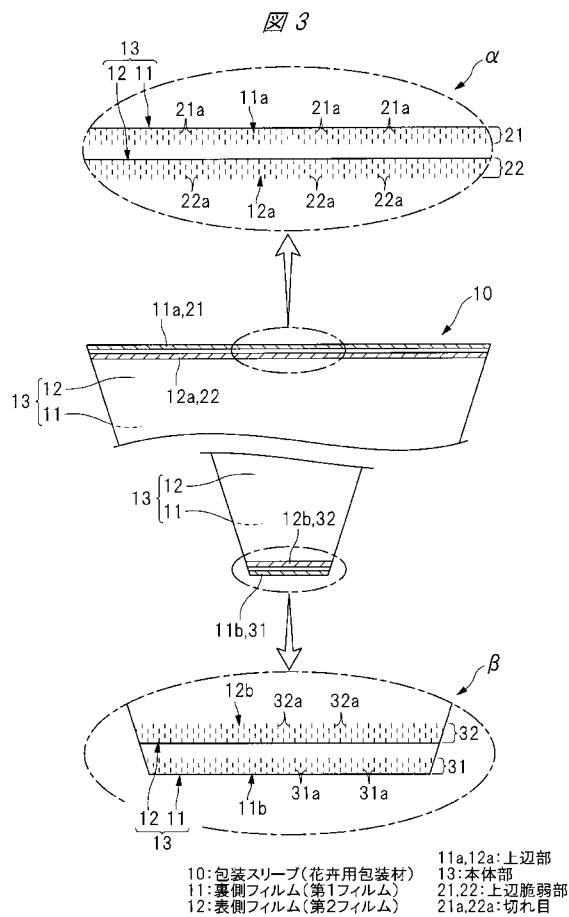
【図 1】



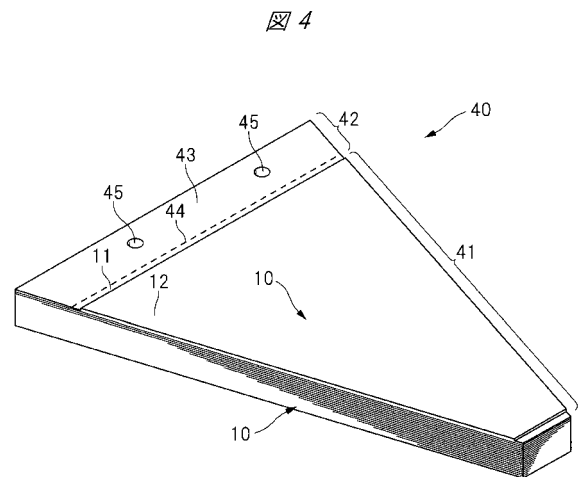
【図 2】



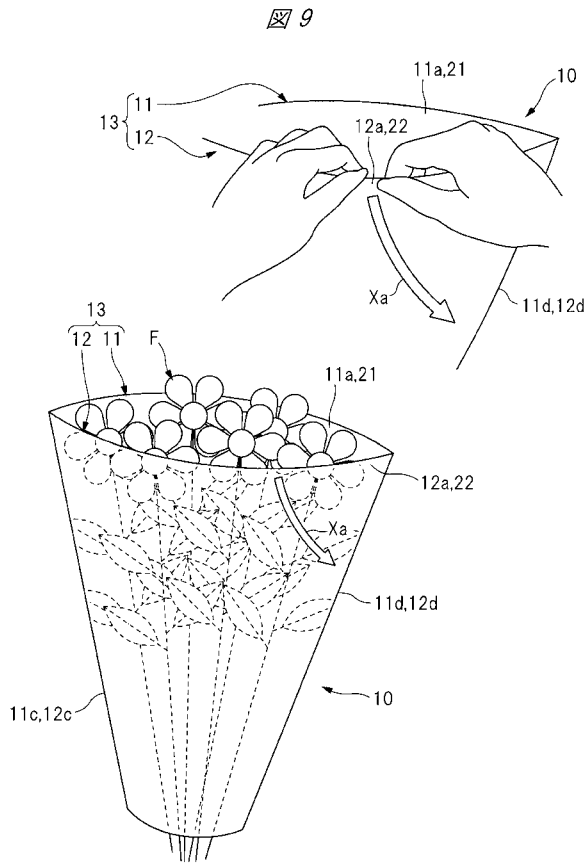
【図 3】



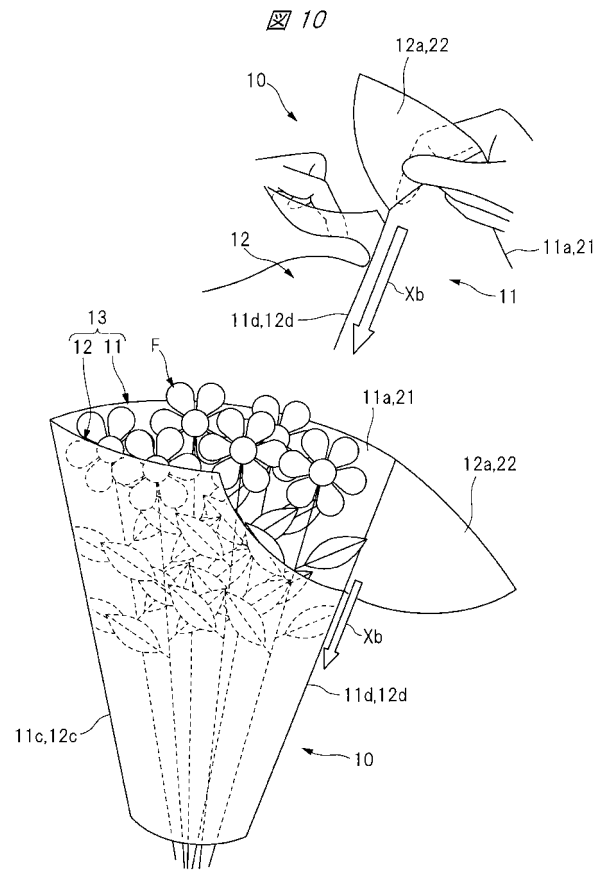
【図 4】



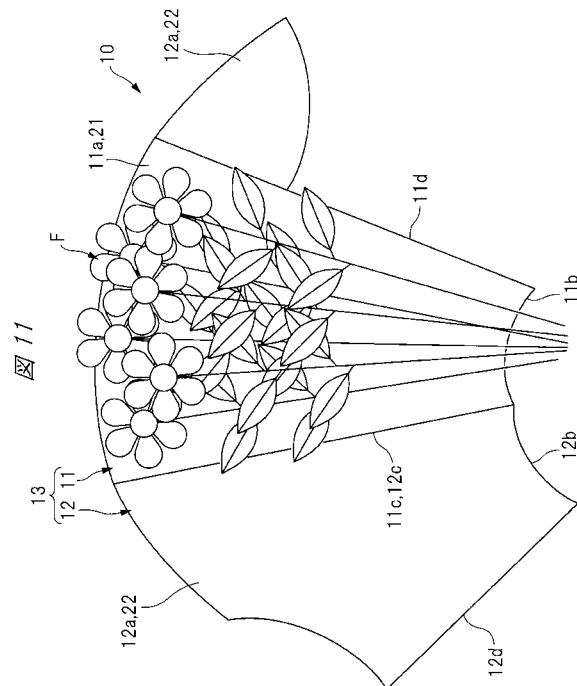
【図 9】



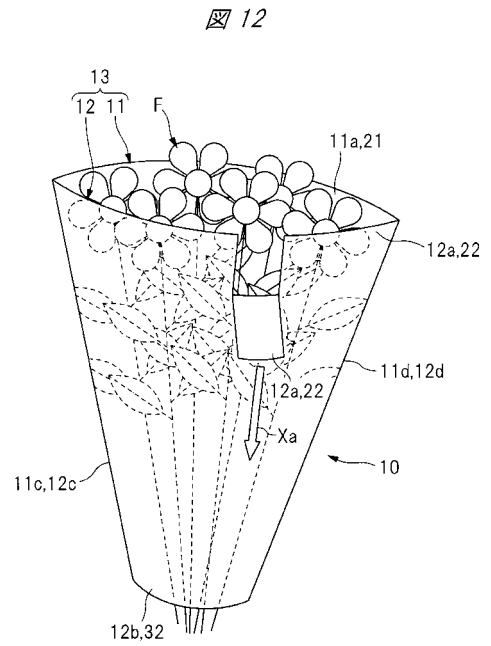
【図 10】



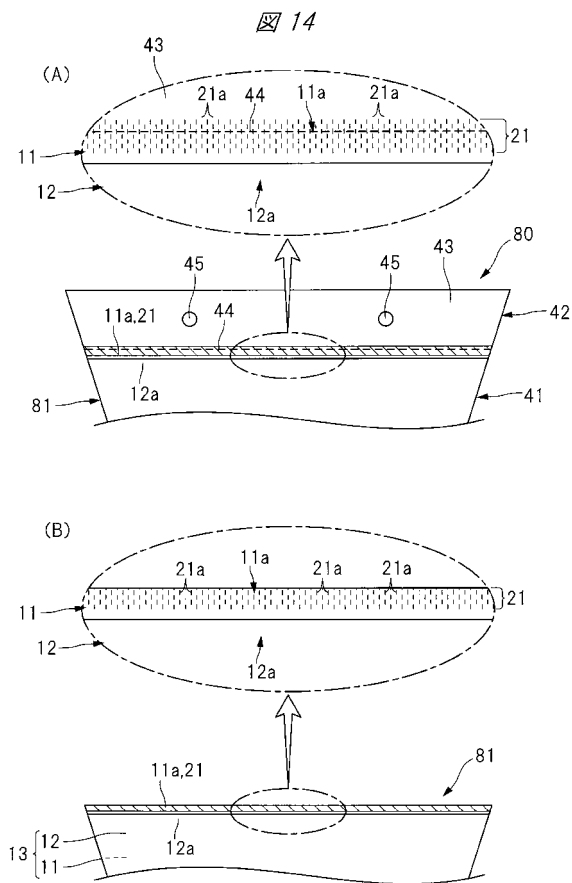
【図 11】



【図 12】



【図 14】



【図 16】

